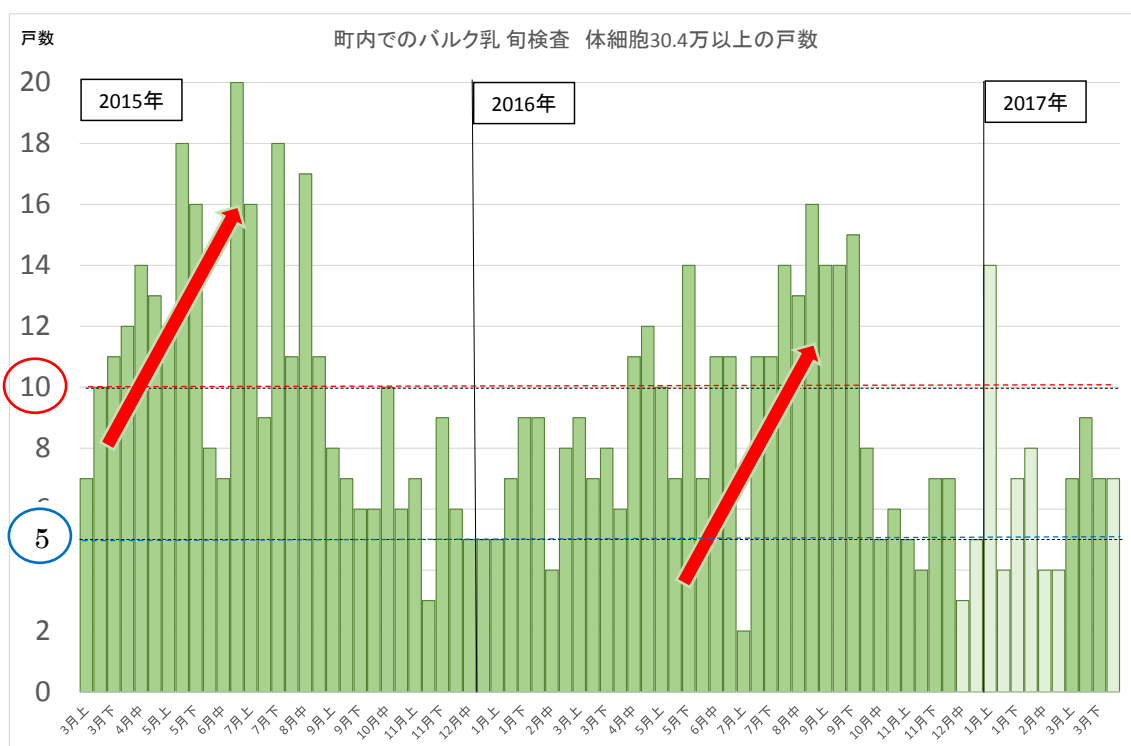


## あしよろ・ハードサポート通信

4月に入り、昼間はあたたかい日が増えましたが、中旬を過ぎての降雪もありました。寒暖を繰り返しながらじわじわと春がやってきます。パドック整備や牧柵修理、作業機整備など、春に向けての支度も始まりつつあるようです。

### ◆ バルクの体細胞数の動きに注意する

下の表は、足寄町内での2015年3月～今年4月上旬までの間の旬検査で、体細胞が30.4万を超えてしまった戸数の推移です。こうして見ると、30.4万を超える戸数は年々減少していますが、それでも春から夏にかけて体細胞が高くなる傾向にあることがわかります。このような季節的な要因に加え、普段は乳質に問題ないのに、突発的に体細胞が高くなり、旬検査で「うっかり」ひっかかってしまうケースもありました。



昨年12月中旬から2月末まで、集荷ごとの体細胞検査が行われました。棒グラフの色が薄い部分で、体細胞30.4万を超える戸数が減ったようにも見えます。この期間は、毎集荷の体細胞数の報告が届くことで、組合員さんが怪しい牛をより早く摘発し、対処できるようになっていたのでは？と思っています。

4月からまた、集荷ごと検査が再開されました。これから乳房炎が増える季節に向かいますが、この様子だと、昨年よりも良い推移を期待できるのではないのでしょうか。

### ◆ 乳質の良い酪農場の共通点は、早期発見と早期治療

いつも体細胞数が低い酪農場の共通点には、罹患牛を早期発見できていること、すぐに適切な抗生物質治療を始めていることがあるようです。バケツ搾乳、廃棄乳というロスが発生しますが、罹患初期に対処することでより効果的に治療ができ、慢性乳房炎になりづらくさせます。

熟練の搾乳者だと、前搾り時のブツの有無に加えて、乳房を触った感覚（熱っぽい、張っている、かたい）、そのときの牛の行動（触られるがイヤで足を振るなど）からも乳房炎を疑い、その都度PLテスターでチェックしているという話を聞きます。



バルク乳体細胞数 30.4 万以下は「ルール」ですが、それを守るために廃棄乳が増えていくのであれば、酪農場に何か根本的な課題が残っているのではないのでしょうか？

解決の糸口が見えずに悩んでいることがあるときには、いつでもご相談いただけたらと思います。

（久富聡子）

（写真）繋ぎ牛舎でもパーラーでも、前搾りは必ずストリップカップを使い、乳汁を床にまき散らさない

### ＜現場で見かけたワンポイント＞

写真はある酪農場での搾乳風景です。

プレ・ポストのディッパーと一緒に、消石灰などの資材が入っているビニール袋をカットし、腰に巻いて作業なさっていました。これだとツナギにディッピング液が付かなくて済みます。

ナイスアイデア！



- ・芽登のフロンティア牧場(株) (旧 山下牧場) は、4月27日(木) 10:00~14:00 に来月稼働予定のレリー社搾乳ロボット牛舎を一般公開します。ロボット4機を備えた新しいフリーストール牛舎のレイアウトや設備をじっくり見学することができます。地元での良い機会ですので、足を運んでみてはいかがでしょうか。

(5月稼働予定のため、当日は、新牛舎に搾乳牛は入っていません)

- ・5月中/下旬に、営農部佐藤さんとハードサポート久富を講師に搾乳の勉強会を実施します。内容は、基本的な搾乳手順のおさらいに加えて、色々な酪農場での搾乳の様子や、搾乳のやり方(手順は?作業人数は?搾乳時間は?道具は?...)の紹介などを考えています。詳細は追ってご案内します。どうぞご参加ください。